

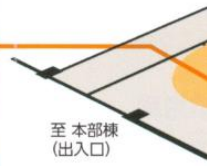



<p>名称</p>	<p>東京電力ホールディングス株式会社 安全考動センター</p> 
<p>場所</p>	<p>東京都日野市百草 最寄駅：京王線・聖蹟桜ヶ丘</p>
<p>内容詳細</p>	<p>2017年4月開設 東京電力グループ社員向け研修施設で、安全意識を高め、現場に必要な「当事者意識」「危険察知力」「阻止実行力」を身に付けることを目的とする。 導入ゾーン、体感ゾーン、体験ゾーン、体得ゾーンがある。</p> <div data-bbox="384 936 1198 1272"> <p>1 導入ゾーン Introduction zone</p> <p>映像により、自分たちが携わる電力事業の社会的意義を認識し、災害の現実やトップメッセージを通じて、一人ひとりが安全に対する意識を高めて研修に入ります。</p>   <p>至 本部棟 (出入口)</p> </div> <p>電気事業の歴史、電気事業の現状及び社長の安全への取り組みメッセージが映像で流される。</p> <div data-bbox="384 1458 1214 1749"> <p>2 体感ゾーン Feeling zone</p> <p>過去の災害事例から災害の怖さ・悲惨さを感じ、災害発生に至るプロセスや発生状況、原因について自分事として捉え、ワークショップ形式で学びます。</p>  </div> <p>今までの経験や立場に合わせて、過去の事例や危険体験に触れることで安全意識を高めることを目的とする。 自ら感じて、考えて、互いに気づき、学びあう姿勢を重要と考えている。 事例を考えながら、ワークショップ形式で、どうして事故になったのか、自分ならどうするかを考える場でもある。私達が普及を進めている「ケースメソッド方式」</p>

の手法を取り入れた研修法で展開されており、ユニークさを感じた。

パネル展示は、単に過去の災害事例の展示ではなく、まず、災害に至る状況を確認した後、「至った災害」「伝えたい教訓」をイメージさせるなどにも活用するように作られている。



以下の5つのエリアに、29 事例がある。

- ① 高所作業による墜落・落下等
- ② 階段、足元のつまずき、滑り等
- ③ 巻き込まれ、挟まれ、重量物運搬等
- ④ 刃物、発熱、VR による感電、過電流体験等

VR



体得ゾーン

明日からどう行（考）動すべきかを具現化し、宣言する。

管理職は、明日からどう職場の安全を守っていくのかを考える。

★宣言は、記録としては残すが、次回研修時、できたのかできなかったのか、「振り返り」の材料としたらどうとの提案が参加者からあった

★感想

①東京電力技術開発研究所（現・経営技術戦略研究所）での研究成果を踏まえた、ヒトとして、またはチームとしての事故防止に関する研究成果（m-SHELモデルの開発など）が、事故事例展示などにも十分に活かされ、また、体験ゾーンでは、VRを取り入れるなど、理解しやすい、興味が持てるようないろいろな工夫がされている



人間の特性に合わない周囲の要因があるとエラーが引き起こされる。
ヒューマンエラーは、原因ではなく、結果である。

H：ハードウェア
S：ソフトウェア
E：環境
L：自分及び上司・同僚
m：マネジメント

m-SHEL モデル（河野龍太郎による）

（見学記作成者が投稿：<http://www.medsafe.net/other/159safer%20.html>）

なお、センターには、「追悼之碑」が建つ



公開状況

一般公開なし

聖蹟桜ヶ丘周
辺の京王線沿
線情報

「聖蹟桜ヶ丘」の由来：「聖蹟」は、天皇が訪れた場所のことで、桜の名所であり、また、明治天皇のお狩場があったことから、この駅名となったそうだ

百草園：<http://www.keio-mogusaen.jp/feature.html>

高尾山：<http://www.takaosan.or.jp/>

深大寺：<http://www.jindaiji.or.jp/>



2017年3月、釈迦如来像が、国宝に指定されました

見学記作成
見学日

三谷（記）京王線・柴崎在住。

見学 平成29年7月10日（月）15時30分～17時00分

名板、VR風景及び「国宝指定」は、三谷が、「追悼之碑」は、宮崎が撮影。その他は、安全考動センター配付のパンフレットから転載